

21. その他

文献

久下浩史、波多野義郎、森英俊. 在宅高齢者における火を使用しない灸 (温灸) の QOL (SF-36®) に及ぼす影響について 日本温泉気候物理医学会雑誌 2008;71(3): 180-6. 医中誌 Web ID: 2008252546

1. 目的

高齢者の QOL 維持を目的とした自宅での温灸治療の有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

被験者自宅

4. 参加者

在宅高齢者 27 名 (男性 10 名、女性 17 名、66-94 歳)。

5. 介入

Arm 1: 温灸群 (11 名、男性 6 名、女性 5 名、平均年齢 74.7±1.4 歳)。火を使用しないお灸「せんねん灸たいよう®」(セネファ社製) を用い、左右腎兪 (BL23)、左右足三里 (ST36) に各約 1 時間の治療を、2 日に 1 回、計 4 回行った。

Arm 2: シヤム温灸群 (16 名、男性 4 名、女性 12 名、平均年齢 76.6±2.0 歳)。「せんねん灸たいよう®」を発熱しないよう加工したものをを用い、同様に治療を行った。

6. 主なアウトカム評価項目

SF-36® Ver.2 acute 日本語版、評価は 7、14、21 日目に行った。

7. 主な結果

温灸群において、SF-36 の「体の痛み」に関する項目 (問 7、8) が、治療前後で有意に改善した ($P < 0.05$)。

8. 結論

自宅での火を使用しない温灸治療は高齢者の体の痛みを改善させる。

9. 鍼灸学的言及

記載なし。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、我が国で今後ますます増える高齢者の QOL 維持・改善を目的とし、自宅で手軽に行える温灸に着目した大変有意義な研究である。今回は、腰下肢部の愁訴に対する評価を行っているが、治療前段階で両群に差がある。従って、募集後に愁訴毎の層化や、腰下肢に愁訴を持つ者を募集するなど工夫が必要であったのではないかと考える。また、今回使用したお灸は、一方が約 50°C まで温度上昇のあるものと、もう一方は温度上昇が無いものであり、被験者のマスクは難しく、バイアスがかかっている可能性も考えられる。試験を実施した時期、マスクの成否等についても記載願いたい。

本研究は、高齢者の QOL 維持・改善に期待の持てる研究である。医療機関に頻繁に足を運ばなくともセルフメディケーションで対応できる治療があれば、過疎地等に居住する高齢者にとって非常に有用で、今後とも継続した研究を希望する。

12. Abstractor

下市善紀 2011.9.11